

ライオンキング「Shadow Land」に見る祈りと”ふるさと”の文化 概念比較

- ライオンキングについて
ディズニー映画ライオンキングをディズニー初の女性演出家ジュリーテイモアが演出したミュージカルである。初演は1997年アメリカミネソタ州。世界13カ国で上映される大ヒットミュージカルである。
- Shadowland とは
自分の叔父を殺し政権を奪ったスカーによる過度のハンティングにより荒廃した祖国プライドランドを救うべく救うべく旅に出る決意をするヒロイン、ナラ的心情とその旅を見送る雌ライオンたちの祈りの曲である。美しかったプライドランドが荒廃した様子をシャドウランドと喩えている。
ライオンキングの音楽プロデューサーはエルトン・ジョンだが、南アフリカ人作曲家の Lebo M.によって作成された楽曲もおおい。この曲そのひとつで映画版ライオンキングでも挿入歌として使われているが歌詞はなく BGM として使われている。ミュージカル化にあたり、Shadowland に歌詞を付けることを決めたテイモアが Lebo M に作詞を頼んだ。
- 研究目的
世界的大ヒットとなり様々な言語に翻訳されて上演されるミュージカルが翻訳時にどのような文化的背景を失い、または付随するのかを探る。その点で日本人が重きを置く価値観や理解し得ない相互文化を知ること、欧米諸外国に比べ日本はなぜミュージカルに対して消極的なのかを探る。
- 仮説
この歌詞は祈りの歌である。ズールー語と日本語、英語圏の「祈り」の概念

や仕様には文化的に大きく違うと思われる。土着の神か、キリストか、仏教か信仰の対象である神も同一ではない。その中で失われた意味や追加された価値観があるのではないか。

英語のオリジナル歌詞では“home”日本語訳では“ふるさと”と直訳されているが、それによる観客に与えるナラの行動の意味は米日で違うのではないか。ふるさとと家族の意味合いにも言及する。

- 研究手法

歌詞の研究。英語、日本語、ズールー語の歌詞分析。アフリカ、アメリカ、日本の宗教観念についての調査。

ふるさとという何を思い浮かべるか。英語のネイティブ、日本語のネイティブに自分の「ふるさと」とは何か、概念的な「ふるさと」とはどのようなイメージか、「Home／ふるさと（異文化語）」という響きに何をイメージするかアンケート調査。

各国の家族という価値観に関する文献を調べる。

- 参考文献

ジュリーテイモア「ライオンキング ブロードウェイへの道」日之出出版社
1998

小山内伸「進化するミュージカル」論創社、2007

野口久光「ミュージカルを楽しむ方法」晶文社、1997